

《梦十夜》之第九夜 PDF转换可能丢失图片或格式，建议阅读原文

[https://www.100test.com/kao\\_ti2020/146/2021\\_2022\\_\\_E3\\_80\\_8A\\_E6\\_A2\\_A6\\_E5\\_8D\\_81\\_E5\\_c105\\_146229.htm](https://www.100test.com/kao_ti2020/146/2021_2022__E3_80_8A_E6_A2_A6_E5_8D_81_E5_c105_146229.htm) 世の中が何となくざわつき始めた。今にも争(いくさ)が起りそうにえる。け出された裸(はだかうま)が、夜昼となく、屋敷の周(まわり)を暴(あ)れ(まわ)ると、それを夜昼となく足共(あしがるとも)が(ひしめ)きながら追(おっ)かけているような心持がする。それでいて家のうちは森(しん)として静かである。家には若い母と三つになる子供がいる。父はどこかへ行った。父がどこかへ行ったのは、月の出ていない夜中であった。床(とこ)の上で草鞋(わらじ)を穿(は)いて、い巾(ずきん)を被(かぶ)って、手口から出て行った。その母の持っていた雪洞(ぼんぼり)の灯(ひ)が暗い(やみ)にく射して、生垣(いけがき)の手前にある古い(ひのき)を照らした。父はそれきりって来なかった。母は日三つになる子供に「御父は」としている。子供は何とも云わなかった。しばらくしてから「あっち」と答えるようになった。母が「いつ御り」といてもやはり「あっち」と答えて笑っていた。そのは母も笑った。そうして「今に御り」と云う言を何遍となく返して教えた。けれども子供は「今に」だけをえたのみである。々は「御父はどこ」とかれて「今に」と答える事もあった。夜になって、四(あたり)が静まると、母はを(し)め直して、鞘(さめざや)の短刀をのへ差して、子供をで背中へ背(しょ)って、そっと潜(くぐ)りから出て行く。母はいつでも草履(ぞうり)を穿いていた。子供はこの草履の音をきながら

母の背中で寝てしまう事もあった。土(つちべい)のいている屋敷町を西へ下(くだ)って、だらだら坂を降(お)り尽(つ)くすと、大きな杏(いちょう)がある。この杏を目(めじるし)に右に切れると、一丁ばかり奥に石の居がある。片は田圃(たんぼ)で、片は熊(くまざさ)ばかりの中を居まで来て、それを潜りけると、暗い杉の木立(こだち)になる。それから二十ばかり敷石いに突き当たると、古い殿の段の下に出る。鼠色(ねずみいろ)に洗い出された箱(さいせんばこ)の上に、大きなの(ひも)がぶら下がって昼ると、そのの傍(そば)に八幡(はちまんぐう)と云うが(かか)っている。八の字が、(はと)が二羽向いあったような体にできているのが面白い。そのほかにもいろいろのがある。たいていは家中(かちゅう)のものの射いた金的(きんてき)を、射いたものの名前に添えたのが多い。たまには太刀(たち)をめたのもある。居を潜(くぐ)ると杉の梢(こずえ)でいつでも(ふくろう)がいている。そうして、冷草履(ひやめしぞうり)の音がぴちゃぴちゃする。それが殿の前でやむと、母はまずをらしておいて、すぐにしゃがんで柏手(かしわで)を打つ。たいていはこのが急にかなくなる。それから母は一心不乱に夫の事を祈る。母の考えでは、夫が侍(さむらい)であるから、弓矢の神の八幡(はちまん)へ、こうやって是非ない(がん)をかけたら、よもや(き)かれぬ道理はなかるうと一(いちず)に思いつめている。子供はよくこのの音で眼を(さ)まして、四(あたり)をると真暗だものだから、急に背中で泣き出す事がある。その母は口の内で何か祈りながら、背を振ってあやそうとする。すると旨(うま)く泣(な)きやむ事もある。またます

まず烈(はげ)しく泣き立てる事もある。いずれにしても母は容易に立たない。一通(ひととお)り夫の身の上を祈ってしまうと、今度はを解いて、背中の子を摺(ず)りおろすように、背中から前へして、手に抱(だ)きながら殿を上(のぼ)って行って、「好い子だから、少しの(ま)、待っておいでよ」ときつと自分のを子供のへ擦(す)りつける。そうしてをくして、子供を(しば)っておいて、その片端を殿の干(らんかん)に括(くく)りつける。それから段々を下りて来て二十の敷石を往ったり来たり御百度(おひゃくど)を踏む。殿に括(くく)りつけられた子は、暗(くらやみ)の中で、の丈(たけ)のゆるす限り、の上を(は)いている。そう云うは母にとって、はなはだ(らく)な夜である。けれども(しば)った子にひいひい泣かれると、母はがでない。御百度の足が非常に早くなる。大息が切れる。仕方のないは、途中で殿へ上(あが)って来て、いろいろすかしておいて、また御百度を踏み直す事もある。こう云うに、となく母がを揉(も)んで、夜(よ)の目も寝ずに心配していた父は、とくの昔に浪士(ろうし)のためにされていたのである。こんな悲(かなし)いを、の中で母からいた。 100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问 [www.100test.com](http://www.100test.com)